郷の集い

発行
新潟放送委員会文芸部
編集責任者
小西　誠

祝卒業

花一輪を

校長　西川八八郎

卒業生の皆さん、御卒業おめでとう。いよいよ本日をもって小学校生活の校長として最後の言葉をおくりたいと思います。皆さんは昭和三十年に学校に上がり、ここに六ケ年の義務教育の課程を卒業されたのであります。これから中学校へ入るのであります。

皆さん、六ケ年というと長いようですが人間寿命の七十年とくらべると ほんのわずかの年限であります。この卒業時の健康や学業の成績は一生の決定的なものではありません。中学への出発点とも考えられます。私たちが私の前級生から学ぶまでの経験をふり返ってみても、あの人は在校中成績がよかったのだが？と今日になって首をかしげる人もかなりあります。そうかというと、勇ましく、ずばり成績がおもわしくなく、始終先生方に御面倒をかけ通しであった人、という人でありながら、現在は人物もしっかりしてきているし、社会的信用も高く、りっぱに家業をきりまわしている人もたくさんいるのです。この点をよくお考えください。

この相違は何によるのでありましょう。私は第一に「誠実」の三字を皆さんにさげるものであります。お互い、ただ一回この世に生をうけたもの、社会人類のために何か貢献したいという切実な充実した隠定が望ましいのであります。これから安又進学するのでありますが、責任を重んじる人、託された仕事を誠実に守り、やりぬく人になってほしいのであります。

りこうで才気走った人だけに終ってはなりません。かげ日向なく、着実に、こつこつと、くるいのない仕事をやり通す、ねばり強い意志の強い人間に育って下さい。

皆さんは若い。若い時は二度なし、といいます。それだけに非常に重要であります。が若いということは善にも悪にも動き易いと考えると一面危険なときでもあります。皆さん、中学へ進まれても「善悪の判断」をあやまらぬよう心掛けてください。自分の良心の声に耳をかたむけ、自分ばかりでなく友人達とも手を組んで断固として悪を退け、常に明るい学校作りの為の前向きの姿勢をつくり進んで頂きたい。そのためには皆さん何よりも健康が第一です。怪我や病気に気をつけて下さるよう心からお祈りしています。

祝辞

想いのままに

小島小枝

昔からお寺と学校は足を運ばねばならんとの言葉をきいておりましたが、今京都本山に参拝して尚一層感じられました。御仏のこの高恩を仰ぎ、あの盛大なる御法要を営まれ数々に参拝せよとあれ程に立派に準備してお待ち下さるのに参らなければ申訳けない気持に参拝してよかったと心から感じられました。それと同様、学校へは足を運ぶ学校教育の現状などを視察し充分な音の教育者天性を発揮向上させ精神を深めたい心持ちでいっぱいであります。新郷校長、精神教育協力者から新郷校下なぞはの言葉を胸にいだき、今後ますます校下の発展と発達しようではありませんか。学の修養によって人格が備わり、坊さんは坊さん世、商人は商人

官民は官民、皆英驕業によってひろいている と思われるでしょう。又英人の英さと英英のすばらしさは云うに云われぬ品格さを異にしています。氏より貴方達の英味の教育は、心を磨き玉の光りを放つものであることを聞いています。教養ある人、これで真の美であると心得られます。

東京本山の盛に競の学生、廿三人の学生と八人お琴の合奏があり、まずみんなが学生の人格ある態度と芸人の差が、ここにあると私は感銘されましたので 一言私の感想を述べました。

（河　向）

父兄の喜びの声。——

三上　繁

小島もえずる春がおとずれて参りました。今から学校へ行くのだと喜んでいたあの日から早や六年を終へ母校を巣立つ子供達をながめ先生の教えを結実な表情で学んだことだろうか。先生の御苦労を想いますと唯々感謝感恩ばかりです。子どもっ親として少年よ大志を抱けのことば、先生の尊い御恩を永遠に忘れず社会に出て良く働くことを祈ります。

（河　向）

三上　豊

我が子供に手をとり合って入学式に参列したのもこの間のように思います。光陰矢の如しとか 早や卒業を迎える喜びは筆ではあらわせません。これも諸先生の一方ならぬ御教導の賜と深く感謝致します。卒業生も一生母校のなつかしさは忘れぬ事でしょう。先学校に入学しても健康で共に手をたずさえ一致協力母校の名に恥じぬ学徒として向学に努める様望みます。

（河　向）

高戸つやこ

日一日と春めいて参りました。六年の歩道を終え栄の光におくられながら巣立って行く子らの姿をみる時、これまで校長先生をはじめ諸先生方の並々ならぬ御指導の賜と深く感謝致します。六ケ年をかえりみますと、中でも忘れられないのが、町村合併、悲しみも苦しみも共にした四年落との子との別れがどんなに身にしみたでしょう。又無邪気な子供と共にたのしい海水浴、運動会、学芸会等の思い出が手にとるように思い出されます。内心もう少しがんばってくれたらと思うとき、諸先生方の苦労を外に親としてあまりにも無関心であったことをはずかしく思っております。この若き生命の途には数多の難苦がよこたわっていることでしょう。

今後共よろしく御導き下さいますようお願い致します。

最後に七年間学習を共にし卒業されるお母さん方の御多幸と御健康をお祈りし、又時々学校へお立寄下さいますことをお待ちしております。

（河　向）

小島　あきこ

真新しいランドセルと共に校門をくぐった子が卒業する。このうれしさもうれしかったこと うれしかったこと、楽しかったこと 悲しかったこと、苦しかったことなどいろいろあったことでしょう。子供はこの貴重な経験を吾々として 夢と希望をもって進んでいくこと思います。今日まで指導して下さった先生の恩を忘れることなく努力することを希望しております。

深い愛情と誠をもって教育して下さった諸先生どうもありがとうございました。

（河　向）

吉江　久美子

ランドセルを背に可愛い姿で入学してから六年 子供達が立派に育って卒業式を迎えるとき 共に限りなき深き愛に満ち月日を御教育下さいました先生方の御努力には心から感謝の念で一ぱいです。栄ある卒業の機に当たり後輩に先生方の御恩を忘れず、はじない人間として生きることを心から願い祈ります。先生 長い間どうも御苦労様でした。ありがとうございました。

（河　向）

斉藤　登代子

光陰矢の如し」いよいよ御卒業おめでとう。毎年のことだが 卒業される皆さんを「おめでとう」のことばで送りながら 母校を巣立って行く子供ともう親として私は何か一抹のさみしさを禁じることが出来ません。喜びとさみしさの入りまじった複雑な気持です。その中には親として十分尽し得ない後悔の念。卒業の皆さん方の御幸せが河となり大河となることを祈ります。

（宮　前）

卒業の喜びを語る
六年生座談会

於 六年教室
司会 広部三一

○入学当時の思い出について何かありませんか

伊藤せ　学校かえりに泣かしたり泣かされたりしました。

藤崎喜　男の子と冬雪の上にたおされたりして泣かされました

田畑　遠足の時や学校（弁当をもって行った時つくまでにたべてしまった。

○六年間のことを考えてみて

高島　六年生の時の臨海学習が楽しかった。

三上ふ　臨海学習で寝言を言ったこと

山崎た　臨海学習で騎馬戦が面白かった。

○小さい時のこと

白時孝　五年生の時び行場へ行って始めてび行棯がみられたこと がうれしかった。

○悲しかったこと

高ひ　三年生の時図書室でいたづらをして校長先生にたたされた事

吉江美　四年生の時およいではいけない時およいで勝谷先生に叱られた時

○おならいした先生方の思い出

富田先生のこと

森　けがした時　先生がきてはずかしかったので、かくれた

吉江栄　パーマが長くて顔がしわくちゃだった。

増永先生のこと

三上和　おこられて残っている様に言われたが帰ってしまって叱られた。

勝谷先生

杉本法　漢字のテストが出きなかった時帰ってしまへといわれたのがつらかった。

吉江秀　のこし の時べんとうをもってきて朝まで残っておれといわれた。

小木し　学芸会におかあさんがあとで弁当をもって来て先生に叱られた

吉江達　珠算の時　できなかったので叱られた

敷野け　良い成績順にならべさせられたのではずかしかった。

小島ち　珠算の時　おいしいおかしをくださった。

○卒業をどう考えていますか

小林清　うれしいみたいな、かなしいみたいな

小木し　これから大せいの友だちと勉強するのかと思うと胸がわくわくする

吉江び　自転車通学がうれしい、サイクリンみたいで

北川　てなわん子にかたれるかと思うと心配である

○中学生になっての希望

敷野け　先生にかわいがられたい

三上ま　みんなにすかれて良い子になりたい。

高橋　勉強をしっかりやたい

小島き　みんなと一しょにたのしい生活をしたい。

藤崎ま　みんなと仲よくしたい。

柳原　しっかり勉強してみんなと仲よくしたい。

伊藤と　みんなと一しょについてゆかれる様にしない。

車屋　水泳の時中学生になると深いところへゆけるのでうれしい。

敷野　わからないところはどしどし質問したい。

竜島利　いろいろな模型をつくりたい。

山口　みんなと仲良くあそびたい。

杉本　河間の子らといっしょに自転車にのって運動させてほしい。

○大きな希望はありませんか

吉江達　建築家になりたい。

高島　宝くじを買って当てたい

小木し　中学生になったら、理科を勉強して看護婦になりたい。

山崎た　野球をやって、プロ野球になりたい。

藤崎喜　料理の先生になりたい。

田畑　ぼくの家はがらのわるいのばかりなので、ぼくはそんなのにならずえらくなって家のものをひっぱってゆきたい。

○在校生に送る言葉

三上ま　みんなと協力して仲良くしてほしい。

柳原　家事をかってみんなで話をしたらどうか、

吉江び　二宮金次郎の銅像を再建してほしい。

吉江栄　土をにさくらの木をうえてほしい。

伊藤せ　外運動場を広くしてあそび道具をふやしてほしい。

高崎　ストーブを入れてやってほしい。

○児童会長として在校生にのぞむもの

小島カ　以前にいろく計画して五つの学校にまけない様にしてほしい。

以上

おれいの言葉

無事春になると同時に、子どものあゆばとおとしを口ずさむ声がきこえてきます。何か淋しい感じとなつかしい母校の姿が思い出されます。此の間、入園式に行ったよりに思うが早や一年はすぎた。あの小さいのがどうして学校にゆけるかと案じた子供も親が心配するよりも案外強く登校する様になった。毎朝の登校には、六年生の子につれられて、元気よくゆく姿をみてうれしく思いました。六年生の方は兄姉のようにいたわって下され、どんな苦労をかけたことと感謝するのみで心からお礼申上げます。なお先生には親さえも手におえない者をあれだけに育て下され、雪の日風の日にはかと思うとき、お私の言葉もありません。ありがとうなります。小さい子供の心にも、大きくなったらえらくなって、小さい子のお世話をしようと感銘したことでしょう。卒業あめざん有りがとうございます。中学校にゆかれてもしっかり勉強して下さい。ご健康と、奮事をお祈りします。

幼稚園学級父兄会長
木島久左エ門

卒業される皆さんへ

今年の冬は近年にない大雪に見まわれまして野も山も白一色、もうその雪も消えまして早春のあたたかい日ざしを感じて雑草や木々の若芽にようやく春の息吹を感じる頃となりました。この良い三月、皆さんには六ヵ年の小学課程をおえて、希望に胸をかがやかせながら中学校へ進学されることだろうと思います。はつ切れる様なみなさんたちの顔にこの喜びと希望がみなぎりあふれていることがうかがわれて、私も共にうれしく心から、お祝い申上げます。皆さんは六年間振りかえってみますと、体育会や遠足のこと、学芸会のこと等、まぼろしの様に思い浮んでくることでしょう。自緑を入れた学帽のりりしい中学生、胸に中学生のバッジをつけた在学徒、この姿はもう自信に満ています。皆さんも中学校へ入られても、この思いでを胸にいだいてしっかり勉強して立派な生徒になって下さい。又親父様学級のお母さんの中にも卒業生方も何人かいるようですが、今後共よろしくお祝いします。

中浜　白崎あさ子

月日の立つのは早いものではや長女が卒業させていただくようになりました。こんなに成長出来ましたのも先生皆さまのご指導の賜と今更ながら感ぎの念でいっぱいです。今后共何かとご厄介をかけることと思いますがよろしくお願いします。最后に卒業のみなさんに幸いあらんことをおいのります

茶堂　藤崎静子

父兄のよろこびの声

「蛍雪の功成りて」とは、とてもお祝いして上げられそうもないご成績ですが、曲りなりとも六年間の課程をおさめられてこの春、元卒業を迎へられますことは、何といってもよろこばしいことです。どうぞ今スリーアルバム（読書録など）の最小限だけはご頑張得されたご様子、母はそれだけでも満足です。でも中学校にご進学された時には、立派な蛍雪の功を積んで下さいね。

宮前　藤崎テル子

晴れの卒業を間近にした私達母子は嬉しさで胸いっぱいでございます。想ばせば七ヶ年前の、四月一日西、東も知らない子とともに学校のお世話になったのが、早くも六ヶ年の学業を終り、また自立の日を迎えられますことは、ひとえに担任の先生、又諸先生の愛の御指導の賜と深く心から感謝いたして居ります。これからなつかしい母校を巣立って中学校へ行く事になりますが、今後共よろしくお祝いします。

中浜　白崎あさ子

父兄の喜びの声

卒業式を目の前に

吉江 菊枝

仰げば尊し、日頃の恩……このメロディーも今度で四回目を迎える事になりました。何時かはこの日が来る事と予期していたものの、いざ卒業式を目の前に迎えての今日この頃、ただ寂しさで胸いっぱいです。月一回の母親学級に寄せていただいた母親でさえも淋みなれた学校とお別れするのは、後髪を引かれる様でただ何もいえません。まして七年間も校家同様、体育会に学芸会にと思い出多く過して来たこの古巣を立たれる幼ない生徒皆様の胸中は、いかばかりとお察し致します。思い返せば皆さんは地震の記念児で、かってないお友達の多い組で幼稚園の時はこわもあって、いつも先生から落ち着きのない組だといわれて困ったのに、今日ではどの子も皆、立派に成長され、中学へ入学出る様になったのは、この上もない喜びでございます。これ一重に諸先生方の暖い御指導のたまものと深く感謝致しております。又母親学級が出来てより早十年、長女が六年生の時でした。その当時は家の事も無理にでも、犠牲にして少しでも発展せしめと一生懸命努力した甲斐あって今日では部下でも名声のある母親学級となり今後共この学級をより一層、存続致すようお願い致します。

今年は特に先生方のおばからいにより修了式には私たちの胸にお祝いの記章記念品物それに記念品までいただき、この喜びは私にとっては生涯忘れる事の出来ない思い出となるでしょう。最後に諸先生方学級の皆さんどうも長い間お世話になり有難とうございました。御健康をお祈りしてお別れ致します。

（河間）

御卒業おめでとうございます。

伊藤清治の母

「月日の流れるのは水の流れと同じもの」と、よく言われますが本当に早いものでございますね。その間皆さんは先生とお家の人々の暖かい愛情につまれて、何事にも負けずによく頑張って来ましたね。

短いようで長い六ヶ年、皆さんにとっては色々の思い出が一杯ある事と思います。これから振って中学生ですが、小学校時代が一番なつかしく忘れられないものです。これから大きくなるにつれて次第に困る事苦しい事が出来ると思いますが、どうぞ心豊かに何ごとにも真剣にたくましく生き抜いて下さい。そして いつまでも先生の御恩に感謝し、お友達を信じお家の方に心配をかけるような事は絶対ないで下さい。それから一番大切な事は健康です。勿論、身体も心も誰にも負けずに健康で立派な社会人となる様学習に励んで下さい。最後になりましたが先生方どうもありがとうございました。

（宮前）

小木 こずい

昭和三六年までを思い返しますと、いろいろなことがありました。新郷校下の人々は本当に仲よく力を合わせて今の美しい郷を作ってきました。こんなに、しあわせな学校から、この長い期間皆様とたのしくすごし今はつらい別れとなりました。でも過ぎ去った事はどんなに悲しい事でも懐かしいものであり美しいものですね。卒業生の皆さんは白線のついた帽子をかぶって中学校（入学する日を楽しみにお待ちの事でしょう。人数の少ない小学校と比べて 中学校は人数が多いし最初は もまごつくことでしょうが、一生懸命、勉強してりっぱな人になるように、最後に皆様の御健康と御幸福をお祈りいたします。

（向屋）

小島力の母

母子ともに数にあたり限りない喜びと感謝の心で一ぱいです。何人かの子供がこの学校を巣立って行く今来年が最上級生となるにあたり十有余年を静かに回想して見たいと思います。十年前のある母学校の親睦会に出席した時、右の級の母親学級をお迎えと座談会が開かれ何でもよいから質問をとおっしゃった。その時私の家では長男が高校、長女が中学でした。人命尊重の為原子炉をすると長男は母親学級に長女は家事と言葉を迎えて下さいました。

母の手伝いをしてくれ勉強は何時も夜でした。私は農事と家事一切に育児にあけくれて 新聞やラジオを見聞する暇はほとんどなく従って子供達の勉強の相談相手になってやることも出来ませんでした。なお新教育実施になってからは、一層わからない事ばかりで 子供達と事にはうとくなるばかりで 子供達とは手のとどかない（だたりが出来てしまいました。私はどうする事も出来ないで淋しい思いで毎日を過して来た事に これる様な淋しさかも知れません。私は絶えず自分自身をふり返えりくこの心情を続けて行きたいと念願しています。これも皆諸先生方の御心遣しの賜と深く感謝しています。

（おわり）

（河間）

商橋こずえ

このような機会に恵まれた私はどうして有難世ずにはいられましょう。人をかえりみるひまもなく「今日の社会情勢、新教育の理解についてどのようにしたら子供についてゆけるか」等の問に当時の助役様が「学校に来て子供と共に学ぶ先生方の指導を得ること、文時局の講習等を聞く事が一番よい。このような事が出るよう努力するとおっしゃる間もなく母親学級が開催しました。私達は驚く切った者が水を与えられた様なよろこびで母親学級が待ち遠しくなりませんでした。喜びを噛みしめて私達は固唾めて行きました。それは つくしの芽が春の光にさそわれて顔を出し、はかまが一枚ずつかえられて後にはすべなになるように 私の考えも、家庭生活の移り方の上に明るい光を見出しました。

私の暗い心はどこへか吹き飛んでしまった事と共に今年一年を「母親会」に感謝と最上の敬意で送ろうと決心しました。

くれようくれようとする心はすべて打って青い学校時代に帰った様やく会の数々を本に私は勇力して参りました。

不平不満が出れば絶対で共に下り、欲が出れば私心をおさめ、腹が立てば ぐっとがまん ひたすら学と学とし て明かるい家庭を願って思い切心と たにつ ってきました。このような生活が日を重ねるに従って心は軽く家庭内も明るくなり、子供達もすくすく伸びゆくその間くものすべてが幸福 なるような喜びを感じております。他人様の目からみれば一緒に頑張ってこれる様な 本当に仲よく力を合わせて

ます。おわりにのぞみまして諸先生並に会員の皆様の御健康をお祈り申し上げます。

（中栄）

田畑スミオ

子供が楽しい卒業式がもう間近かとなりました。月日の立つのは早いものです。この間を入園したと思うのにもう卒業生となりました。然那気なく自に浮んで来ます。「ちょ」と何も知らない子を先生方の厚い母親の御指導と愛情とによって立派に育てて下さいました。心から喜び祝いとお礼と感謝致します。一年から六年までの諸先生方の御恩は一生涯忘れる事の出来ない思出となりました。日頃の御指導本当にありがとうございました。新郷中上げ学芸会に参加出来ない私は残念でなりません。

父兄共に学ばねばならない私達は楽しいやらです。すばらしい学校又 [illegible] 別れする為に [illegible] 方の会員の皆様に [illegible] 記念品の時は [illegible] 方の会員の皆様に [illegible] 方の会員の皆様に [illegible] 方の会員の皆様に

※には春夏秋冬何かにつけ御指導賜り只々感謝の気持で一杯です。今後は一層努させ各先生方の御教訓に報ゆる様家庭に於ても指導した気持ですが恩師無智の愚かさで立派の思い出も何から書いて良いものか紙上には書き表す事ができません。只々子供には先生の御恩を忘れぬ様何日迄も言聞かせる積りでおります。

最後に各先生方の御健康と新郷校の発展を御祈り致し乱筆ながら筆を止めさせて戴きます。

（中　炎）

伊藤カタイ

三月もそばとはいえ　今年の冷は例年にない寒さがつづきます。はや今年も卒業の日が近づいて参りました。脇谷先生に担任されて早や三ヶ年間いろいろとお世話になり今ここに卒業できますことは、単に先生教えの賜と心から喜んで戴ります。月に一回の母親学級には先生とひざを並べて我が子の巣を見ると　なんだか私も卒業に当り一言お礼申上げます。六年間の長い間　これまでよくお導き下さったと感謝の気持で一杯になってお礼の申しようもございません。今後も御鞭撻とお願い致します　いろいろとありがとうございます。

（中　炎）

高戸　花子

思い返せば七年間　可愛い幼稚園として入学させて頂きました子供が、はや六年生を卒業させて頂くことは、諸先生方始め父兄達にとりましてこんなに自出度、又嬉しい事はございません。七年間の長い年月の間に子供達にとりましても　皆さんと楽しくお勉強したり又遊んだ事、先生にほめられた事、叱られた事を思出して子供と楽しく語り合う夜のたびたびございますが、その楽しい顔は親の私には　とても　うれしく先生方のお蔭を持ちまして　のびのびと巣立ち行く子供を見るに付け　唯々先生方の御恩の賜と深く感謝する次第でございます。とうもありがとうございます。

（河　間）

母親学級の卒業に際し　小木陸一

私の母がいつも母親学級に終生参加してためでたく卒業の栄冠を勝ち得た私は心から祝福して上げたい気持で一杯です。若い母子供の様な母親の皆さんと共に母親学級創立以来皆子の為に在時代の流れと共に変りゆく世の中を、母親としての立場を認識するために若い世代におくれまじと勤めて出席し個の完成に少しでも近づくために黙々と努力精進しようと勤めている姿が母を通り越す私の目にいつも映っていました。時代までお説教よりも孫達の子守の為に造られて居る母親に取って母親学級の集いこそ只一つの修養機関であり憩の場所であったと信じます。何十年と持ったことのない筆を呼えいてから指って皆様と共に学び共に伸び様とする意欲に燃えている事が何ことができます。母親学級のわった夕飯時には必ず今日あった講師のお話の内容を話上手の母は家族会議にかけて反省し合いいましめ合う場を作ります。又時に家族内の討論会が始まるというか母親学級にこんな話があったとか言って助言者を勧めてくれます。いつも家中に迫れて世間知らずになりがちな母が、母親学級のお陰でいつし新しい世相を学び　ある時は嘆いある時は踊って楽しく俳句に暮した事だろうと私も信じ母をそう思って感謝していることでしょう。いつもお世話になりました先生方始め父兄会役員諸氏に感謝の意を表わす共に始めて今年より私の家内が母から一員としてがんばる事になっています。

（角屋）

中野　忠夫

〃　〃

四十五年振りの大雪も跡かたなく消え去り雪国の春が訪れました。思えば去る三十年入学したあと片ないあの日が昨日のように思われます。以来六年間に成長した子の姿を眺める時感慨あふるる想いを以て育下さいました諸先生方の海山に勝る御厚の賜と深く感謝するものです。顧れば毎年行われた学芸会体育大会度毎その歩みを拝見した時のうれしさは子を持って知る親の共通のようです。

（北本堂）

斉藤栄代子

「光陰矢の如し」いよいよ御卒業おめでとう。母親のことながら卒業される皆さんを「おめでとう」のことばで送りながら、母校を巣立って行く子供をもつ親として私は何か一抹の淋しさを禁ずることができません。なぜ　なんとなく　入りまじった複雑な気持ですその中には　親として十分尽し得なかった後悔の念一。卒業の皆さん　谷川の せせらぎが　河となり大海となることを祈ります。

山口一枝

陽春萌芽のざわめきの中に　我が子の卒業を迎えるに当たりランドセル姿の入学式　体育会　学芸会と夢の如く過ぎ去って　過去六年の思い出を、ふりかえると心身共に成長した我が子の姿を見るにつけ　日頃の諸先生方の御指導及び御苦労を思い感謝の気持で胸がいっぱいです。今後共　中共に宜しくしてもよろしく御指導下さいますようお願い致します。

岩谷栄子

去年は雑園に訪れると、蕾のもえ出るのを待って居たのが、ついこの間の様に思われたのに、早や七年間の月日が経ってしまった。あの特別やんちゃだった子が、こんなにおとなしくなったのは　全に先生方のおかげです。本当に感、やることばもありません。また当に成、中学生になった喜び子よりも親の喜びが大きい様に思われます。

（河　間）

森　元右門

小学校卒業式で、まさに、中学へとびたつ為として羽ばたきをしている我が子を見、今更の如く先生のご苦労が思いやられます。今日までお育て下さり骨折り下さり、誠にご苦労のかぎりでありたことは申し上げるまでもないことですが、親われくはんこの恩師の先生方を増さしますよう　御教導賜ります。

（角屋）

倍々佐義で一層の御苦労を増さしますが、今後共　御指導賜ります。

（北本堂）

吉江君子

卒業の皆さん　谷川のせせらぎが　大きい唱子に大海原　思いでの入学記念写真をみれば　何にも知らないあどけない童つぐ　眺め今日まで長い月日　諸先生方初め小使さん、親も及ばない温い指導により　数多の卒業式を迎えることは　なかなか　何と感ずしてよいか言葉にも言いあらわされません。ここに恩師諸先生の御骨折りとつくしみの賜と深くおんやしてかる次第です。

（河　間）

北川　キヨ

長い間　恩師　学校　送りつ十七年来ました。そして早や六年間　過ぎ去りました。先日も中学の教科書教科書がきかされまして中学校かとわが子の成長におどろきました。これも諸先生の多くの指導や又いろいろなことに深く感謝します。一所生（入学当時）はどうなるかと心配たりのことに。

（中　炎）

小林　敬治

光陰はとぶ矢の如く、いつしか卒業の日がまいりました。省みますに小さな紅葉の葉のよう方を刺さ左も知らないものが入園いし今日の卒業まで御指導下さいました先生方の御恩を思う時　海よりも深く　山よりも高いお教の賜で御礼のことばもどう申し上げてよいやら唯々感涙いたすのみでございます。今後は中学へ入学いたしますが、今迄通り御指導賜ますよう　御教い申し上げます。

（角屋）

三人の兄弟

この四月には弟が三年生　兄が四年生に　更に長女が中学にうらやましがられ　姉妹三人の子も母の乳房にすがっていた赤ん坊がこっぱ赤ん坊の頃がほんの昨日のことのように思われ。のに年の数だけ身体も成長し覚えたし、情緒も全に発達して参ました。自我の意識が強くなるところ肉親ということ　相戦う兄弟げんかもこの先幾年か続けられる。でも社会的協調精神を身につけ、社会的協調に順応して行かねば成らぬ彼等には兄弟げんかも盛り幼児の頃の姿と化する日が来ないでしょう。私はいささか情別の情にうれて物足りさが心に胸をすのて行きました。私はいつまでも彼等が兄弟げんかをつづけてくれるよう念じました。至に平安なえんりょはすべてくれ異国の空のように穏やかやって明日の夢てきまのだ。えんが他人になった一番の方法が、と私は心の中で必死に彼等に祈りかけているのでした。しかし母の祈りを知るや知らずや彼等は若木枝のように枝葉とり大空向てすくすくの思いくの高と高き遠く伸びつつあるのです。けれども将来どの方向にどのように伸びて行くとも幸福の花びらは必ずに咲かせておくれよ。なぜ人目にふれずとも香高く清く美しい花よね。

（「篠崎テル子」）

三十五年度卒業生

— 文芸委員会 —

小西　誠　新田ゆり子

小島昭夫　青木英治

三上みのえ　高橋君枝

山口貴次　白崎好

岩井栄子　菊キヨエ

稲崎豊　中小路原子

小西カズイ　斉藤広孝

篠崎テル子　広部孝一

今井富貴子　池田とし子